

国際シンポジウム Migrating Words 報告

平成22年6月12日（土）、千葉大学人文社会科学研究所総合研究棟マルチメディア会議室において、千葉大学文学部・人文社会科学研究所主催の国際シンポジウム *Migrating Words* が開催された。

このシンポジウムは、副題に *Diaspora American Literature* とあるように、移民社会であるアメリカの文学を中心に、移民に代表されるディアスポラの人々のさまざまな移動と、それに関連することばの移動という概念を通じて、現代のグローバルな世界におけることばと文学の問題を検証しようというものである。

シンポジウムは文学部長尾形隆彰教授の開会の辞で始まった。司会は文学部時實教授が務めた。基調講演者として迎えたのは、「世界文学」という新しい文学史、比較文学の視野を開拓する、現代の文学研究で英米文学をこえて大きな発言力を持つ、合衆国イェール大学の Wai Chee Dimock 教授である。Dimock 教授は“Who’s Irish?”と題して、代表的ディアスポラのひとつのグループであるアイルランド人のアイルランド的なるもの、すなわち「ディアスポラ」現象をとりあげ、Henry James, Com Toibin, James Joyce, Gish Jen といった作家たちにそのさまざまな側面を探求する発表をおこなった。

続くパネルでは、外国人学者を含む6人の発表者がそれぞれ、多様なディアスポラの側面をとりあげた。フィンランド、トゥルク大学の Pirjo Ahokas 教授は、“The American Dream, Transnational Adoption and the Possibility of Racial Reparation in Gish Jen’s *The Love Wife* and Anne Tyler’s *Digging to America*”と題し、主としてアメリカとアジアの間の国際的養子縁組における、差別や同化の問題を論じた。千葉大学、時實早苗教授は、“Crossing and Letters”という論文で、カリブ海地域出身の作家 Caryl Phillips がアメリカのアフリカ人奴隷の末裔を描いた小説 *Crossing the River* を題材に、手紙と crossing という概念とディアスポラの関係性を論じた。ポーランド、ウッジ大学の Jadwiga Maszewska 教授は、“Chicana Texts? Postcolonial Theory?”において、メキシコ人女性のアメリカ旅行記を題材に、チカーナ（メキシコ系アメリカ人女性）文学の成立についての問題を取りあげた。和光大学、余田真也教授は、アメリカ先住民の二人の作家、Leslie Marmon Silko と Gerald Vizenor の作品について、“Inheritance and Re-creation of Cultural Narratives”と題して、先住民の側からのアメリカ史の書き換えという問題を論じた。最後に千葉大学、Myles Chilton 准教授は、“Migrating English”と題し、教育の側面からの「ことばの移動」、すなわちたとえばアメリカの移民の文学を日本で教えるというような、複雑な言語・文化の置換とその受容を論じた。

パネルの終了後、ディスカッションが行われた。司会の Chilton 准教授からの基調講演者 Dimock 教授への質問から始まり、フロアからもそれぞれの発表者に向けて多くの質問がよせられ、活発な議論がくりひろげられた。